

蒲郡市民病院 地域医療連携室だより vol.22

発行／地域医療連携室 TEL 0533-66-2307 / FAX 0533-66-2308

新年のごあいさつ 院長 河辺 義和

新年を迎えるにあたって一言ご挨拶申し上げます。
東日本大震災の記憶がまだ生々しく脳裏に焼き付

いている中、昨年発生した熊本地震は、地震大国日本の恐ろしさを再認識させられました。過去に東南海エリアにおいては、東南海地震(1944年12月7日 M7.9)、三河地震(1945年1月13日 M6.8)、昭和南海地震(1946年12月21日 M8.0)と巨大地震が3連動で発生をしています。現代科学をもってしてもなかなか地震の予知は困難ではありますが、そう遠くないうちに起こるであろうと予想されているこの地域の地震に対して、蒲郡市民病院は本来の役目に加えて、災害対策の拠点として対応するための準備はしておかねばなりません。暴風雨や大地震に対して、想定内という言葉は使えないと思いますが、できる限りの耐震対策、備蓄の確認、発災時の実践的な救護体制の再確認をしなくてはならないことを改めて痛感しました。

さて新年四年の今年は気持ちを新たにして大空に羽ばたくときです。皆で気持ちを一つにして市民の皆さんのため、病院のため頑張っていこうではありませんか。それにはまず自分自身の健全なフィジカルとメンタルを保つことが必要です。患者さん、先輩、同僚に心配りしながらも自分自身が楽しく、そして無理なくチームとしても仕事ができるよう心がけていただきたいと思います。

ある雑誌に“一人で見る夢は、それは夢にしかすぎない。しかし、皆で見る夢は現実になる。”と載っていました。多くの職種でチーム医療を推進し、皆でいい夢を見たいものです。

平成 33 年には医師数は過剰に転ずると予想されています。しかし医師、看護師の偏在が急に解消されるとは思いません。そんな環境の中、当院がどのようにその存在価値を高めるべく、独自性を発揮していくかということも考えていかななくてはなりません。

国の政策として財政再建に力を入れるのは当然のことです。その財政的な締め付けの中で蒲郡市民病院は、地方の中規模公立病院、かつDPC上の一般病院という、ある意味厳しい立場で対応していかなくてはなりません。今後もいろいろな決断を求められることと思いますが、院内のみならず、多くの皆様のご協力を得てこの難局を乗り切っていきたいと考えています。

その中で昨年より地域包括ケア病棟は増床されて 107 床となっています。しかしこの病棟の果たす役割の中で、現状では当院は急性期病床からの転床が中心で、在宅患者さんの緊急時の受け入れなどの部分はまだまだ浸透していない面もあります。今後も地域医療連携室を中心に、この病棟の役割を地域の先生方、そして市民の皆さんにご理解、ご協力いただくことの努力を継続していく所存です。県下有数の高齢化率となっている我蒲郡市において、この病棟が更に有効活用されることを願っています。

一方、なかなか医師数が充足しない当院ではありますが、当然ながら救急医療体制の堅持と、入院を中心とした東三河南部二次医療圏での役割を果たすべく、この方面でも力を入れていきたいと考えています。

我々は今後も蒲郡市民病院の役割をしっかり理解し、患者さんの視点に立ち、思いやりの心を持って、患者さんのために最善を尽くしていく所存ですが、諸先輩方の粒粒辛苦の上に成り立っているこの病院が、今後も継続して安心安全の砦として市民の皆さんの期待に応えることができるよう、今まで以上に医師会の先生方、介護施設の皆さん、そして市役所、保健センターの皆さんとの連携を模索していきたいと考えています。今後ともご指導・ご鞭撻のほど何卒よろしくお願い申し上げます。

地域医療連携ミニギャラリー

毎回、地域の医療機関からご紹介いただいた素晴らしい作品を展示している地域医療連携ミニギャラリー。作品を通じて患者さんの想いや病院の歴史を知ることができるとご好評をいただいております。今回は蒲郡クリニックの井野副院長よりご紹介いただきました。ぜひともご鑑賞ください。

第4回ミニギャラリー作品 F嬢(花嫁)ほか



展示期間 1月11日～2月28日 画 故 井野 光正 様

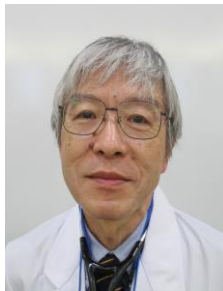
裏面もご覧ください

新規赴任医師のご紹介 よろしくお願ひします



常勤医師

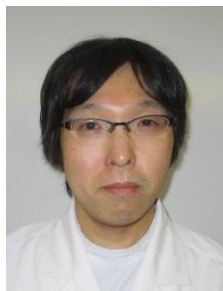
(敬称略)



11月1日～
循環器科医師
(内科部長)
しまおりゆういちろう
島雄隆一郎
診療/毎週
水・金曜日

内科で循環器内科(水曜日)、一般内科(金曜日)を担当しています。日本循環器病学会循環器専門医。日本内科総合内科専門医。全国自治体病院機構認定臨床研修指導医。

【出身大学】名古屋市立大学
【前勤務地】八雲総合病院



1月1日～
皮膚科医師
(医長)
くぼ りょうじ
久保 良二
診療/毎週
月～金曜日

専門分野:乾癬・光線療法
担当領域:皮膚科一般の診療
乾癬診療(生物学的製剤治療の再開も予定)、難治性皮膚疾患の病院皮膚科としての治療(軽症疾患についてはクリニックへの逆紹介を積極的に進めてまいります)。

【出身大学】名古屋市立大学
【前勤務地】名古屋市立大学など



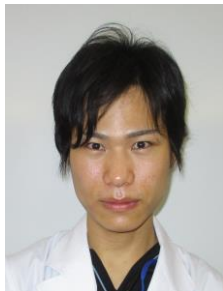
1月1日～
消化器科医師
あさの ごう
浅野 剛
診療/毎週
水曜日

消化器内科を中心に、内科疾患全般を担当させていただきます。

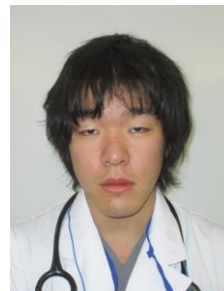
【出身大学】藤田保健衛生大学
【前勤務地】名古屋市立東部医療センター

臨床研修医

(敬称略)



12月19日～
臨床研修医 ^{ながた いさと}
永田 五郷
研修医1年目で右も左もわからない状態ですが、1日でも早く患者さんの力になれるよう日々努力を積んで参りたいと思います。
【出身大学】藤田保健衛生大学
【前勤務地】中京病院



1月1日～
臨床研修医 ^{こだま りゅうたろう}
児玉 龍太郎
研修医1年目で技術的、知識的な面でまだまだ未熟ですが、すべての患者さんに丁寧かつ誠実な対応を心がけたいと思います。
【出身大学】東北大学
【前勤務地】中京病院

11/10

第2回ケアマネージャー交流会を開催



11月10日に今年2回目となる「ケアマネージャー交流会」を開催しました。施設のケアマネージャーさんをはじめ院外からは39名の方が参加されました。当院からも看護師や理学療法士、相談員など26名が参加し、合計65名でのにぎやかな交流会となりました。

第1部は講演を通じて、10月から2病棟(107床)での運用が始まった地域包括ケア病棟について学んでいただきました。病棟専従の理学療法士からは「地域包括ケア病棟におけるリハビリテーション」と題して、病棟でのリハビリや食事の様子、病院スタッフによる家屋調査の実施など、在宅への退院に向けた病棟の取組みをお伝えしました。また、第2部のグループワークでは、「効果的な退院前カンファレンスのあり方」についての活発な意見交換を行っていただきました。

参加者アンケートには「病棟の看護師さんと顔の見える関係づくりができた」、「市民病院の状況や退院カンファレンスの流れが理解できた」、「地域包括ケア病棟の役割が理解できた」といった意見をいただきました。また、「訪問看護等を利用し在宅生活を可能にするための意見が聞けた」、「多施設、多職種の話が聞けたことで、医療福祉の連携について考えることができた」など、交流会を通じて在宅医療の地域課題について考える機会にもなりました。

